

開講科目名 / Course	文化人類学入門	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	足立 恵理	
担当教員名 / Instructor	足立 恵理	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	この授業では、看護の現場で患者の多様な背景に目を向けられるよう、文化人類学に加えて医療人類学の視点から、近～現代の医療を取り巻くエスノセントリズム（自文化中心主義）の課題を批判的に見直す。演習では異文化の患者に対する看護を想定し、言語の壁を低くする手法の活用を練習する。特に、エスノセントリズムの課題縮小にも寄与する半構造的インタビューの手法を練習し、ケースに応じた工夫や関係者との協働による計画づくりを行う。	
到達目標	1. 文化人類学や医療人類学の概念を活用して、自他や現代の医療を取り巻く複雑で多様な文化的背景を見直す。 2. 多文化共生医療の実現に向けて、学んだ視点や方法論を看護現場で応用できるよう工夫する。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、5.地域性・国際性	
授業計画	STEP1【文化人類学】自他を取り巻く文化的課題 01. 近現代におけるエスノセントリズムの課題 02. エスノセントリズムを乗り越えるための思想的試み STEP2【医療人類学】多文化共生医療をめぐる文化的課題 03. 医療システムの多様性 04. 病気観と治療観・死生観の多様性 05. 医療化・脱医療化とその課題 STEP3【演習】看護の現場における多文化間協働 06. 言葉の壁を低くする手法の特徴と活用 07. 半構造的インタビューの特徴と活用 08. 手法の工夫と多文化間協働のための計画づくり	
その他の授業の工夫	学んだ視点を応用する力をつけるために、演習やグループワークを適宜取り入れる。	
時間外学修	事前学修：次回の学習内容について、配布資料を読んで予習する。「次回までに」と指示があった内容について、自分なりに調査しまとめておく（7h）。 事後学修：講義で扱った視点について、配布資料等を活用して復習する。演習で扱った手法の活用・応用方法を考え、使い方を練習する（15h）。	
評価方法と評価割合	平常点（講義内容を自分の課題として捉える姿勢、グループワークや演習への貢献度）：50% レポート：50%	
テキスト	授業中にプリントを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		